

九州沖縄土を考える会秋期研修会を開催しました。

2024年10月18日



牧野会長



ほ場をご提供戴いた仲井さん

九州沖縄土を考える会は、9月18日(火)・19日に、大分県にて【**土壌の本質をつかむII 大分編**】をテーマに研修会を開催しました。現地研修では、農研機構 農業環境研究部門(農環研)とスガノ農機の共同研究として全国各地で行われている土壌断面調査とモニリス採取を豊後高田市の仲井さんのほ場で行いました。今回のほ場は埋め立て地の砂質土のため断面が崩れやすく今までと同じ深さでの断面とはいきませんでした。約90cmの断面を見ながら農環研の前島勇治氏の解説をいただきました。場所を豊後高田市役所内の会議室に移して、「土壌の力を引き出すために~土壌断面から養分バランスを見極める~」のタイトルで、帯広畜産大学 谷 昌幸教授のご講演をいただきました。ご講演は「土の成り立ちと素性を知る」「土を調べ特性を理解し改善する」「土の本来的な機能を引き出し活用する」の土づくり三箇条で締めくくり、次回以降のご講演にも期待が高まる内容でした。研修会の最後に前回ほ場を提供された



今回は、帯広畜産大学から谷教授(前右)と島田助教(後左)、農研機構農業環境研究部門から前島先生(前左)と森下先生が参加

福岡県の柳さんに完成したモニリスが授与されました。ホテルに移動してからの懇親会では、1次会から2次会へ活発な情報交換が深夜まで続きました。

翌日は、ホテルの駐車場をお借りして採取した、土壌モニリスの説明会が行われ閉会となりました。次回も前島氏による土壌断面調査と谷教授による勉強会を引き続き開催する予定です。開催日程が決まりましたら改めてご案内させていただきますので、皆さまのご参加を心からお待ちしております。



サラサラの砂質土



前回ほ場提供者の柳さんへモニリス贈呈



九州沖縄土を考える会
大分県豊後高田市呉崎
仲井農園ほ場
2024/09/18



前島先生の断面ひとくちコメント

大分県豊後高田市呉崎
仲井農園(白ネギ)

国東半島の西側に位置し、周防灘に面した干拓地の沖積土です。この付近は遠浅の海が広がっているため、古くは江戸時代中期から干拓事業が行われてきました。この土壌断面は1969年に干拓事業が完了した圃場で、全層にわたって砂質で排水良好のため、鉄やマンガンの斑紋や、還元的なグライ層はありませんでした。また土壌断面中には貝殻が多く、天然のカルシウム供給源となっています。以前はタバコやスイカを栽培し、現在は白ネギを栽培しており、4年前に天地返しを行っているため、土層の分かれ方は明瞭ではありませんが、作土層(ロータリー:0-12cm、プラウ:12-30cm)と下層土(30-53cm、53-90cm+)に4層に分けて観察しました。深さ90cmから地下水が湧出していますが、地下水のみみ上げ過ぎによる海水の流入には十分気をつける必要があります。

